

上尾歴史散歩

272

市制施行55周年特別企画

上尾サイクル紀行 ⑧

愛宕～原市方面

「上尾サイクルマップ」で訪ねる郷土の歴史



東町公民館脇のむくの木

この付近には、以前金毘羅神社と呼ばれる神社があった。かつては、祭日は2月11日の初金毘羅で、この日にはだるま市が

コースは上尾環状線を進み、さいたま水上公園の入口で右折し、公園の東側を抜け左折、芝川の日の出橋を渡ると上尾下になる。放光院を右

に見ながら進むと原市に入り、さいたま菖蒲線(第二産業道路)に出る。ここで右折し、この辺りでは珍しい鐘楼門のある浄土宗の相頓寺前を通るのだが、左折方向に妙厳寺が見えるので立ち寄ってみる。山門前に大きな戒壇石があり「不許輩酒入山門」と刻まれている。「輩」とは「クサシ」

その昔、鎌倉街道は今の旧中山道脇の横浜ゴム株の近くからこの場所を通り、芝川にかかる鎌倉橋を渡り二ツ宮の水川神社の脇を通っていた。神社の手前と後ろに鎌倉街道の標識があるが、町並みにはその面影はほとんど残っていない。

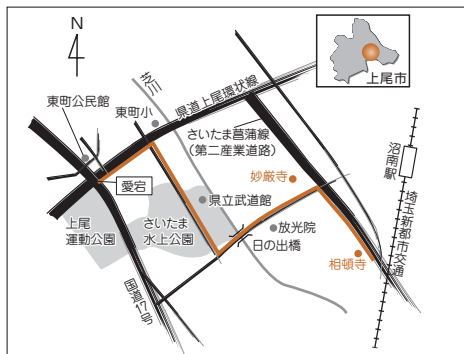
「カラシ」とも読み、お寺で戒めて口にしないう野菜(ニンニク、ラッキョウ、ネギ、ニラなど五輩という)である。余談であるが、酒を般若湯と言って寺に持ち込んだり、戒壇石の文字を「不許輩」(輩は赦さず)、「酒入山門」(酒山門に入れ)と、具合のいい所で上下に分けるなどの冗談もある。市内で一番古い板石塔婆(板状の石(板石)の供養塔(塔婆)「弘長板碑」のある瓦葺の楞嚴寺の山門前両脇にも新旧二つの戒壇石が立てられており、さらに「不許輩酒入山門」の意義を記した石碑がある。コースに戻り相頓寺に向か

念物のむくの木がある。このむくの木が何百年もの間、街道の変遷を見守ってきたことがうかがえ感慨深い。

立った(『上尾市史』)。また「種銭」と言って、いくらかの小銭をこの神社で借りるとお金が増え、翌年には倍にして返すという信仰が原市の人々の間にあったという。



妙厳寺の戒壇石



次号は新幹線に沿って原市沼までのコースを進みたい。(ぐるっとサイクリング同好会・川島一郎)



アッピーを探そう!

右のアッピーが登場するのは? ページ



【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、11月20日(水)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先: 〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス: s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は12月号のこのコーナーで。前号の答えは「6」でした。ご応募ありがとうございました(応募者41人)。

市の人口・世帯

(平成25年10月1日現在)

22万8,064人

男/11万3,630人

女/11万4,434人

※前月より117人増。

9万5,173世帯

◆「広報あげお」は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅の他、市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」を利用してください。



本紙は、再生紙を使用しております。